

平成 2 2 年

岐阜県観光レクリエーション動態調査結果

平成 2 3 年 9 月

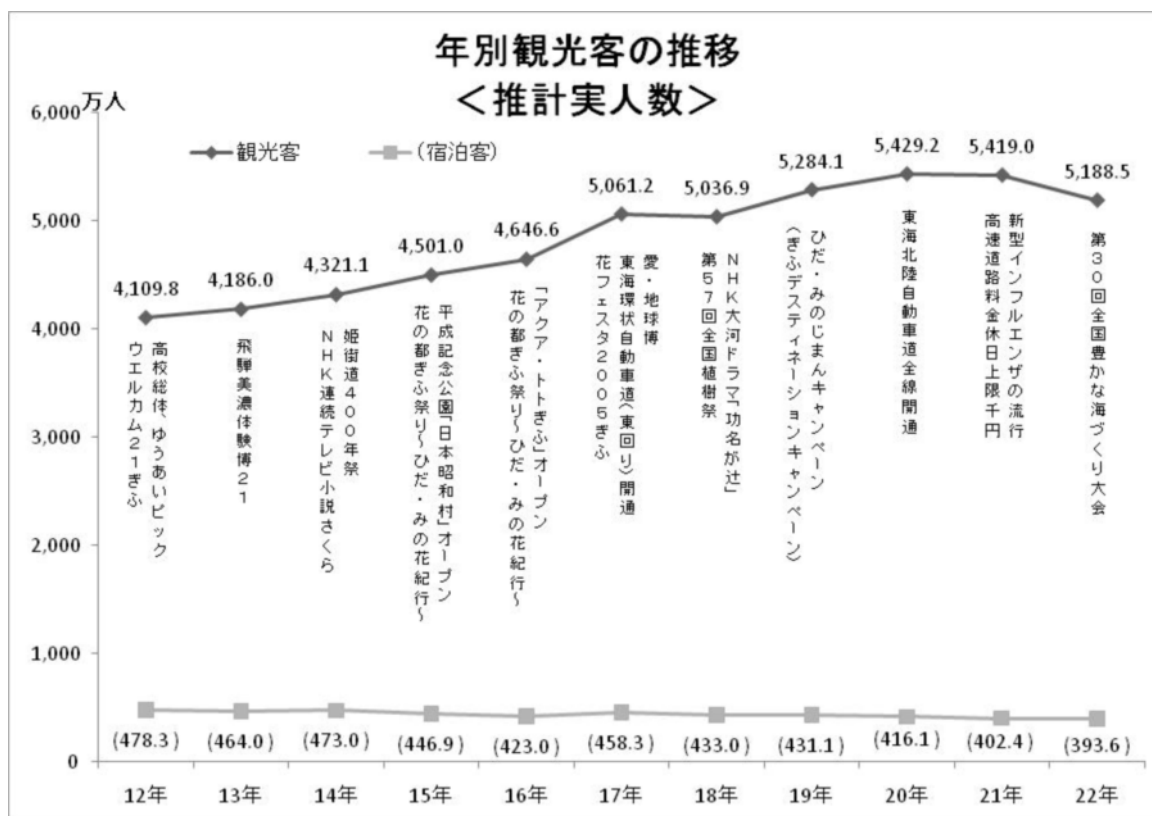
観光・ブランド振興課

1 観光客数

(1) 県全体の動向

平成22年の観光入り込み客数は、前年と比較して、日帰り客数が減少（前年比4.4%）宿泊客数も減少（前年比2.2%）し、全体では前年比4.3%の5,188万5千人となった。

長引く景気低迷や円高の影響などの経済情勢、7月の災害をもたらした記録的豪雨、酷暑や雷雨など、県内の観光を取り巻く環境は厳しい状況にあったため、全体として減少した。一方で、こうした影響がある中、アジアを中心とした海外プロモーション活動など各種誘客事業を実施した効果などにより、外国人の延べ宿泊客数は、前年に比べ9.3%増となった。その結果、県内の観光客数を日帰り・宿泊別に見ると、日帰り客数が前年比4.4%減少であるのに対し、宿泊客数は2.2%の減少にとどまった。

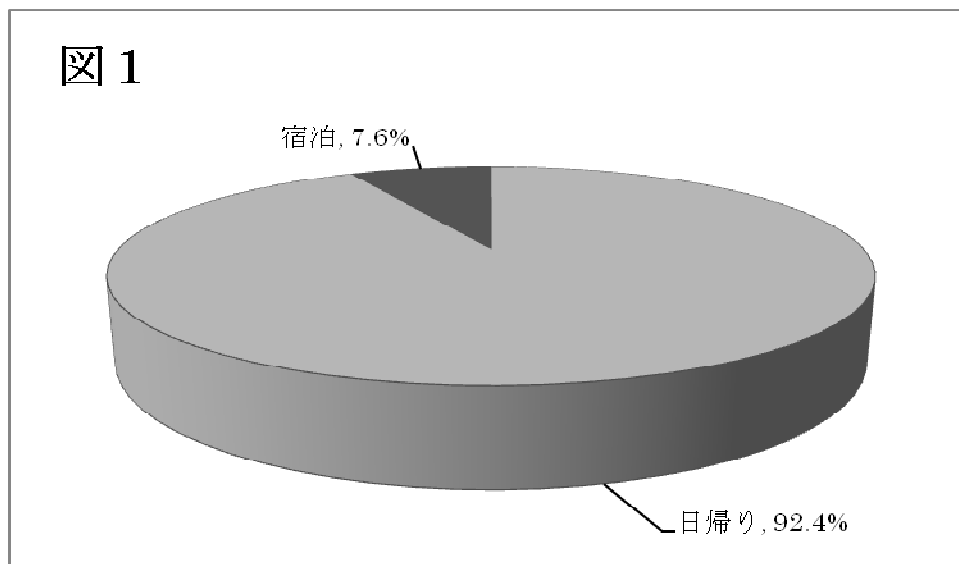


区 分		平成22年確定値(対前年比)	参考:平成21年確定値
観光客数	全 体	5,188万5千人(4.3%)	5,419万人
	日帰り	4,794万9千人(4.4%)	5,016万6千人
	宿 泊	393万6千人(2.2%)	402万4千人

観光客数は、推計実人数。

日帰り・宿泊別観光客数

平成22年の観光客数は5,188万5千人であったが、これを日帰り・宿泊別にみると、日帰り客は4,794万9千人、宿泊客は393万6千人と、依然として日帰り客が多いものの、宿泊客の占める割合は前年より0.2ポイント増加した。(図1)

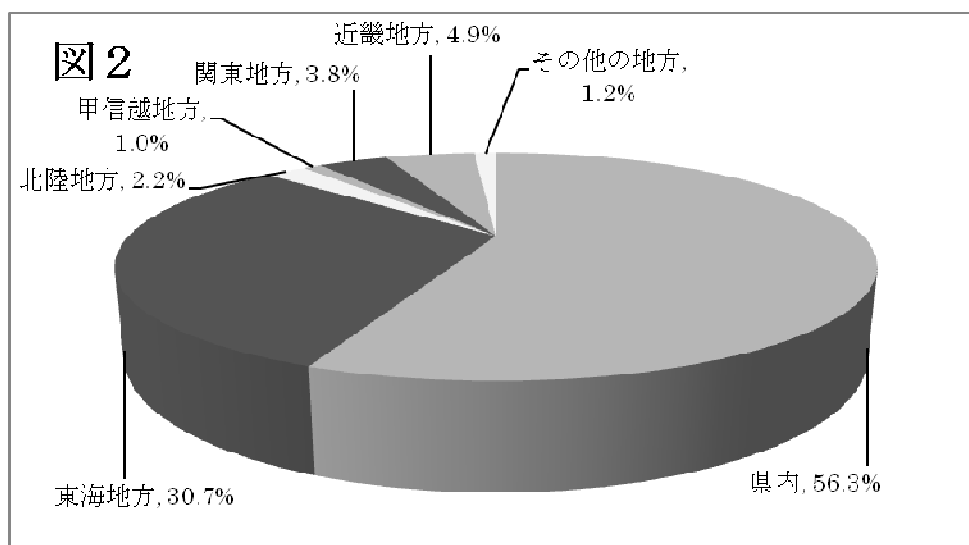


圏域別に見ると、西濃圏域が日帰り客の割合が最も多く(構成比98.2%)、岐阜・中濃・東濃についても日帰り客が9割以上を占める。

一方で飛騨圏域は、日帰り客69.5%、宿泊客30.5%と他圏域に比べ宿泊客の割合が高く、県全体の宿泊客393万6千人のうち207万1千人と全体の52.6%を占めた。

居住地別観光客数

居住地別に見ると、県全体では県内客は2,921万人(構成比56.3%)、県外客は2,267万5千人(構成比43.7%)と、県内客が多くを占めたが、飛騨圏域では県外客の割合が67.5%と高い。(図2)



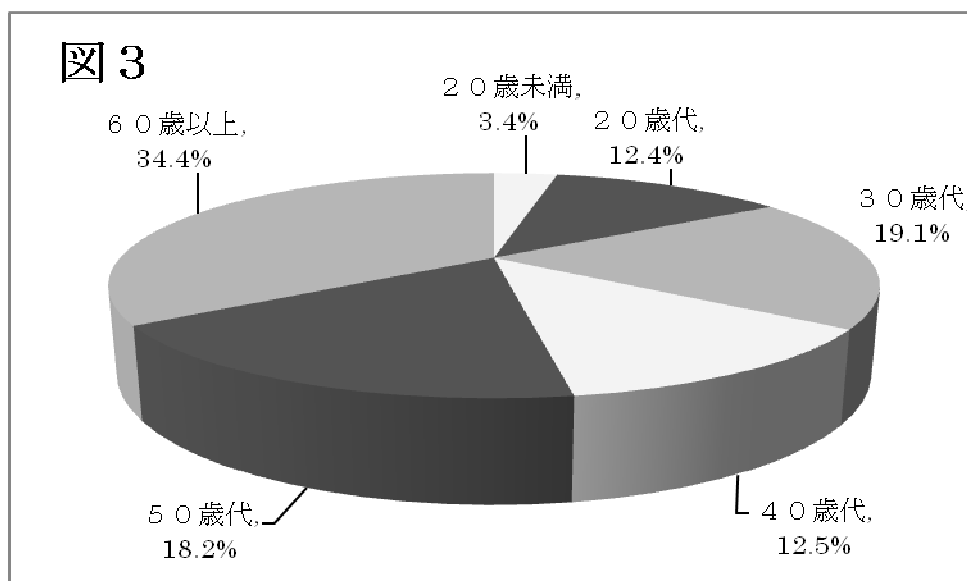
県全体では、県外客のうち 70.4%が東海地方からの観光客であり、以下近畿地方、関東地方と続いている。

また、東海地方からの観光客の割合が特に高いのは、西濃圏域及び東濃圏域である。

男女別・年齢別観光客数

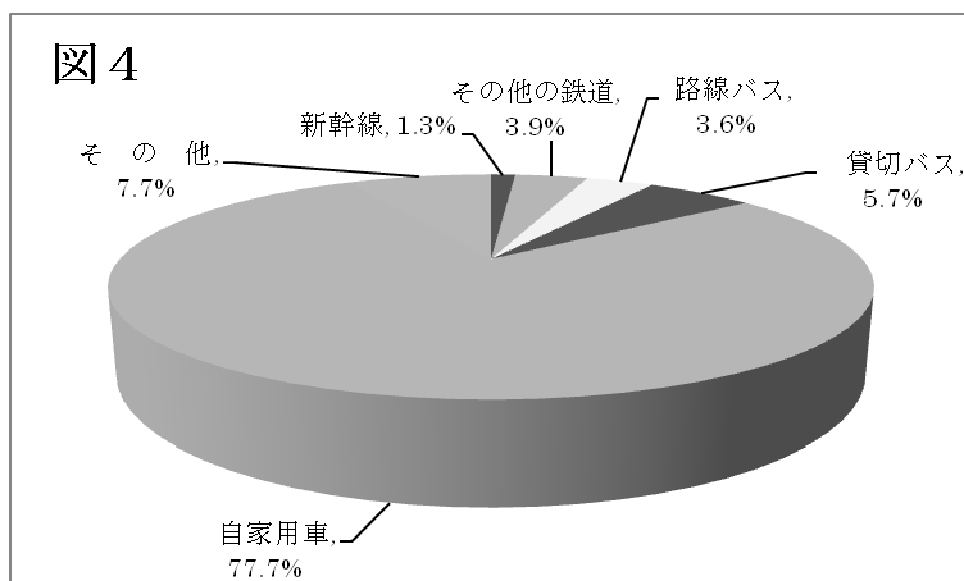
男女別で見ると、男性が 2,410 万人（構成比 46.5%）、女性は 2,778 万 3 千人（構成比 53.5%）と女性が上回り、前年と構成比は変わらなかった。

年齢別では、60 歳以上が 34.4%と最も多く、以下 30 歳代、50 歳代と続いている。（図 3）



利用交通機関別観光客数

利用交通機関別に見ると、前年に引き続き自家用車が最も多く全体の 77.7%を占め、鉄道や路線バスなどの公共交通機関の割合は引き続き低い。（図 4）



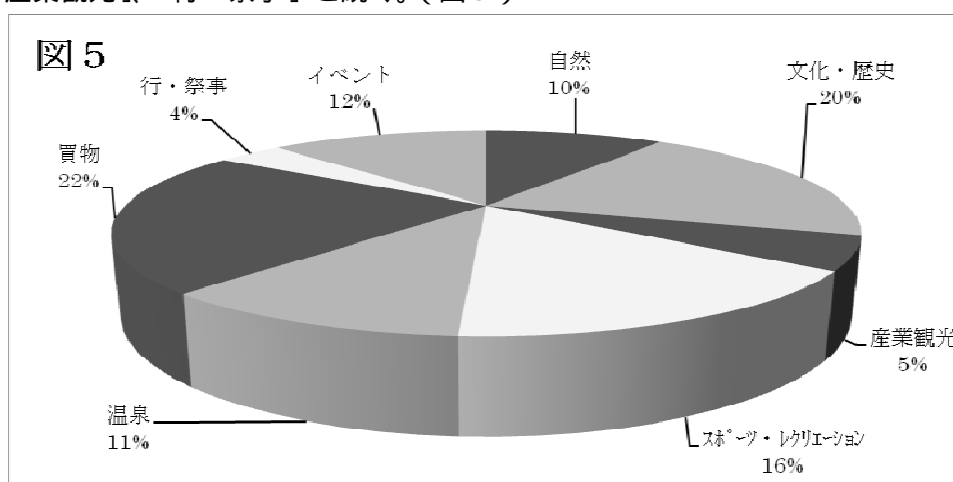
同行者別観光客数

同行者人数別に見ると、「2～3人」と「4～5人」で全体の80.3%を占める一方で、「団体旅行」（1人以上）の割合は全体の4.5%にとどまり、少人数による観光形態が主流となっている。

同行者別に見ると、「家族」が48.9%と最も多く、次いで「友人・知人」と続く。

観光地分類別観光客数

観光地分類別に見ると、「買物」の割合が昨年より増加し全体の22.5%を占めている。以下、「文化・歴史」、「スポーツ・レクリエーション」、「イベント」、「温泉」、「自然」、「産業観光」、「行・祭事」と続く。（図5）



圏域別で見ると、岐阜圏域は「スポーツ・レクリエーション」や「イベント」、西濃圏域は「文化・歴史」や「自然」、中濃圏域は「買物」や「スポーツ・レクリエーション」、東濃圏域は「買物」、飛騨圏域は「文化・歴史」や「温泉」が多い。

なお、観光地点毎の集客数の県内トップは、前年に引き続き土岐プレミアム・アウトレットの447万人となった。

（単位：万人、％）

順位	観光地点名	観光客数	増減	前年	
				順位	観光客数
1	土岐プレミアム・アウトレット	447.0	+ 1.8	1	439.0
2	河川環境楽園(アクアト含む)	402.4	2.8	2	414.2
3	高山地域	244.8	7.0	3	263.3
4	千代保稲荷神社	202.4	3.0	4	208.6
5	千本松原・国営木曽三川公園	166.7	14.1	5	194.1
6	伊奈波神社	152.1	+ 15.8	8	131.3
7	白川郷合掌造り集落	149.3	5.8	7	158.6
8	世界イベント村ぎふ	145.0	13.4	6	167.4
9	下呂温泉	118.3	4.9	9	124.4
10	岐阜公園	85.9	5.7	11	91.2

(2) 各圏域の動向

圏域別に観光客数を見ると、5圏域すべてで減少となった。

減少率が最も大きかった西濃圏域では、宿泊客は増加したものの日帰り客の減少をカバーできず、全体として対前年比6.9%減少となった。

また、東濃圏域では道の駅や土岐プレミアム・アウトレットの買物客が増加した結果、日帰り客1.8%減少、宿泊客0.2%減少と、全体として対前年比1.7%の減少にとどまった。

<観光客実人数(推計)>

(単位:万人、%)

	日帰り客数	宿泊客数	観光客数(合計)	対前年比
岐阜圏域	1,140.2	68.4	1,208.5	2.9
西濃圏域	1,103.9	20.2	1,124.0	6.9
中濃圏域	936.2	49.0	985.3	4.8
東濃圏域	1,142.4	49.0	1,191.3	1.7
飛騨圏域	472.3	207.1	679.3	5.6
合計	4,794.9	393.6	5,188.5	4.3

千人未満を四捨五入しているため、内訳の計は合計と一致しないことがある。

岐阜圏域

- ・観光客数は1,208万5千人で、前年と比べて35万7千人の減少(対前年比2.9%)となった。このうち、日帰り客数は1,140万2千人となり、前年に比べ30万5千人減少(対前年比2.9%)し、宿泊客数も68万4千人と5万2千人減少(対前年比7.1%)した。
- ・観光地点別の入込客数(延べ人数)についてみると、改修工事に伴い一部施設閉鎖の時期があった「世界イベント村ぎふ」や、酷暑や雷雨など天候が影響した「河川環境楽園」や「日本ライン夏まつり納涼花火大会」において減少した一方、三が日の天候に恵まれた「伊奈波神社」や、開催日の天候に恵まれた「長良川花火大会」等の主要観光地点において増加した結果、圏域全体として微減にとどまったと考えられる。

西濃圏域

- ・観光客数は1,124万人で、前年と比べて83万6千人の減少(対前年比6.9%)となった。このうち、日帰り客数は1,103万9千人となり、前年に比べ83万9千人減少(対前年比7.1%)した一方、宿泊客数は20万2千人と3千人増加(対前年比+1.3%)した。

- ・観光地点別の入込客数（延べ人数）についてみると、災害復旧工事の終了した「大津谷公園」や、「関ヶ原合戦410年祭」が開催された「ふれあい21」で増加した一方、開催期間中天候に恵まれなかった「チューリップ祭」や、1月の雪や4月の雨、8～9月の酷暑など例年観光客の多い時期の悪天候が影響した「千本松原・国営木曽三川公園」で減少した結果、圏域全体としても減少したものと考えられる。

中濃圏域

- ・観光客数は985万3千人で、前年と比べて50万1千人の減少（対前年比 4.8%）となった。このうち、日帰り客数は936万2千人となり、前年に比べ49万5千人減少（対前年比 5.0%）し、宿泊客数も49万人と6千人減少（対前年比 1.2%）した。
- ・観光地点別の入込客数（延べ人数）についてみると、22年9月にオープンした「道の駅可児ッテ」、4月にオープンした「半布里（はにゅうり）の郷とみか道の駅」が好調である一方、前年は7年に1度の御開帳が開催されたことによる増加の反動があった「関善光寺」や、降雨や猛暑の影響があった「平成記念公園日本昭和村」で減少した結果、圏域全体でも減少したと考えられる。

東濃圏域

- ・観光客数は1,191万3千人で、前年と比べて20万6千人の減少（対前年比 1.7%）となった。このうち、日帰り客数は1,142万4千人と、前年に比べ20万5千人減少（対前年比 1.8%）し、宿泊客数も49万人と1千人減少（対前年比 0.2%）した。
- ・観光地点別の入込客数（延べ人数）についてみると、改修工事の影響により「虎渓山永保寺」で減少した一方、高速道路休日千円やテレビでの紹介の影響で増加した「道の駅志野・織部」や、施設の増設により増加し前年に引き続き集客数県内トップとなった「土岐プレミアム・アウトレット」で増加し、圏域全体では微減にとどまったと考えられる。

飛騨圏域

- ・観光客数は679万3千人で、前年と比べて40万4千人の減少（対前年比 5.6%）となった。このうち、日帰り客数は472万3千人と、前年に比べ37万3千人減少（対前年比 7.3%）し、宿泊客数も207万1千人と3万1千人減少（対前年比 1.5%）した。

- ・観光地点別の入込客数（延べ人数）についてみると、ゴールデンウィーク中に桜が開花した「荘川桜」や春祭が天候に恵まれた「高山祭」で増加したものの、節約志向に伴う国内消費の低迷の影響を受けた「高山地域」や、東海北陸自動車道前線開通の落ち着きにより減少した「白川郷合掌造り集落」など、主要観光地点において減少した結果、圏域全体で減少したものと考えられる。

（３）外国人延べ宿泊客数の動向

外国人の延べ宿泊客数は２４万９千人で、インフルエンザの影響を受けた前年と比べて２万人の増加(対前年比+9.3%)となった。継続的な海外プロモーションの成果により過去最高を記録した平成２０年には及ばなかったが、過去２番目の高水準となった。

<外国人延べ宿泊客数の年別推移>

(単位：人)

	平成１８年	平成１９年	平成２０年	平成２１年	平成２２年
岐阜圏域	35,340	40,047	41,444	34,615	40,442
西濃圏域	23,194	22,177	23,469	17,685	32,165
中濃圏域	4,974	5,309	9,775	6,123	6,507
東濃圏域	1,736	2,183	4,599	3,544	4,985
飛騨圏域	122,453	151,257	188,647	165,969	165,075
県計	187,697	220,973	267,934	227,936	249,174

１人の宿泊客が圏域内または県内の２箇所で宿泊する場合、圏域内または県内で２連泊する場合、宿泊客はそれぞれ２人と数える

2 観光消費額

平成22年の観光消費額の総額は2,712億65百万円(対前年比 3.9%)で、うち日帰り客分は1,805億69百万円(対前年比 4.7%)、宿泊客分は906億96百万円(対前年比 2.2%)であった。

また、1人当たりの平均消費額は、日帰り客は3,766円(対前年比 0.3%)、宿泊客は23,042円(対前年比 0.0%)であった。

宿泊客数が減少し、さらに宿泊客一人当たりの平均消費額も減少したことが、全体の観光消費額の減少につながったと考えられる。

区 分		平成22年確定値(対前年比)	参考:平成21年確定値
観 光 消 費 額	全 体	2,712億65百万円(3.9%)	2,822億99百万円
	日帰り	1,805億69百万円(4.7%)	1,895億56百万円
	宿 泊	906億96百万円(2.2%)	927億43百万円

観光消費額は推計額。

3 経済波及効果(試算)

平成22年の生産誘発額は4,125億4百万円、就業誘発効果は39,990人となった。

<参考>

大垣市の製造品出荷額等 4,560億94百万円(H21 県工業統計調査)

県全体(4兆5,690億82百万円)の10.0%

瑞浪市の人口 40,032人(H23.7.1 推計人口)

県人口(2,074,658人)の1.9%

< 参考データ > 年別観光客数・観光消費額の推移

区分		H 1 8	H 1 9	H 2 0	H 2 1	H 2 2
観光客数（推計実人数）<万人>		5,036.9	5,284.1	5,429.2	5,419.0	5,188.5
	日帰り	4,603.9	4,853.0	5,013.1	5,016.6	4,794.9
	宿 泊	433.0	431.1	416.1	402.4	393.6
観光客分類別構成比率						
居住地別	県内	47.0%	47.2%	56.0%	56.1%	56.3%
	県外	53.0%	52.8%	44.0%	43.9%	43.7%
	東海地方	39.1%	39.0%	30.7%	30.8%	30.7%
	北陸地方	2.1%	2.1%	2.2%	2.2%	2.2%
	甲信越地方	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%
	関東地方	4.0%	3.9%	3.9%	3.8%	3.8%
	近畿地方	5.7%	5.6%	5.0%	4.9%	4.9%
	その他の地方	1.2%	1.2%	1.2%	1.2%	1.2%
男女	男性	51.7%	51.6%	46.5%	46.5%	46.5%
	女性	48.3%	48.4%	53.5%	53.5%	53.5%
年齢別	20歳未満	1.8%	1.8%	3.4%	3.4%	3.4%
	20歳代	11.9%	11.9%	12.4%	12.4%	12.4%
	30歳代	23.4%	23.4%	19.1%	19.1%	19.1%
	40歳代	14.8%	14.8%	12.5%	12.5%	12.5%
	50歳代	20.5%	20.5%	18.2%	18.1%	18.2%
	60歳以上	27.6%	27.5%	34.4%	34.4%	34.4%
利用交通機関別	新幹線	1.5%	1.5%	1.4%	1.3%	1.3%
	その他の鉄道	3.8%	3.8%	3.9%	3.9%	3.9%
	路線バス	2.4%	2.4%	3.7%	3.6%	3.6%
	貸切バス	4.6%	4.6%	5.8%	5.7%	5.7%
	自家用車	83.1%	83.0%	77.5%	77.8%	77.7%
	そ の 他	4.6%	4.7%	7.7%	7.7%	7.7%
同行者数別	1 人	10.0%	10.0%	11.1%	11.1%	11.1%
	2～3人	54.4%	54.4%	53.7%	53.8%	53.9%
	4～5人	23.9%	23.9%	26.4%	26.4%	26.4%
	6～10人	7.6%	7.6%	4.2%	4.2%	4.2%
	11人以上	4.1%	4.1%	4.6%	4.5%	4.5%

区分		H 1 8	H 1 9	H 2 0	H 2 1	H 2 2
同行者	家族、友人、一人など	94.2%	94.2%	95.3%	95.4%	95.4%
	職場、地域等の団体旅行	5.8%	5.8%	4.7%	4.6%	4.6%
観光地点分類別	自然	16.4%	15.8%	10.3%	10.0%	10.0%
	文化・歴史	19.8%	19.8%	19.9%	20.5%	19.7%
	産業観光	5.1%	5.3%	5.3%	5.4%	5.3%
	スポーツ・レクリエーション	11.3%	10.5%	16.5%	16.0%	16.0%
	温泉	11.5%	11.2%	10.2%	10.6%	10.8%
	買物	19.7%	20.4%	21.2%	21.3%	22.5%
	行・祭り	3.6%	3.6%	3.4%	3.4%	3.6%
	イベント	12.5%	13.4%	13.2%	12.7%	12.1%

区分		H 1 8	H 1 9	H 2 0	H 2 1	H 2 2
観光消費額(県計) < 億円 >		2,810.03	2,903.98	2,862.90	2,822.99	2,712.65
	日 帰 り	1,699.68	1,795.39	1,901.92	1,895.56	1,805.69
	宿 泊	1,110.35	1,108.59	960.98	927.43	906.96

(注) 実人数、観光消費額等を算出する際に使用する係数(パラメータ)は、5年に1回実施する観光客・宿泊客アンケートに基づき設定し、5年間同じものを使用する。

・平成15～19年調査 : 平成15年度設定の係数を使用

・平成20～22年調査 : 平成20年度設定の係数を使用

(注) 四捨五入のため構成比率の合計が100%にならない場合がある。

【参考】

調査の概要

本調査は、社団法人日本観光協会の「全国観光統計基準」に基づく。

1. 調査期間

平成22年1月1日から平成22年12月31日まで

2. 調査対象

(1) 観光地点

観光地点の定義

年間観光客が50,000人以上、または季節的観光客が月間5,000人以上

観光地点の分類

観光地点の分類は以下の区分による。

- ・「自然」・・・優れた自然環境であり、管理者が常駐している景勝地（山岳、高原、湖沼、河川景観、その他鍾乳洞など特殊地形）。
- ・「文化・歴史」...文化財や歴史的建造物を有し、管理者が常駐している施設（城郭、神社・仏閣、庭園、町並み、旧街道、史跡、博物館、資料館、美術館、動植物園、水族館、その他橋、駅、ビル、ダムなど建造物）。
- ・「産業観光」・・・広範囲な敷地を有し、管理者が常駐している工場、農園、市場、牧場、伝統工芸等の産業拠点（観光農林業、観光牧場、観光漁業、伝統工芸、その他の産業観光施設）。
- ・「スポーツ・レクリエーション」・・・管理者が常駐している施設。
ただし、収容人数99人以下の施設、合併前市町村区域の利用者が8割以上を占める施設は除外し、観光利用の対象として取り扱っているものに限定（ゴルフ場、スキー場、テニスコート、アイススケート場、サイクリング場、ハイキングコース、キャンプ場、大規模公園、レジャーランド・テーマパーク、複合的スポーツリゾート施設、その他スポーツレクリエーション施設）。
- ・「温泉」・・・温泉あるいは鉱泉の湧出する地域であり、管理者が常駐している施設、地域（温泉、その他入浴施設）。
- ・「買物」・・・管理者が常駐している施設。
管理者が常駐している施設。ただし、収容人数99人以下の施設、合併前市町村区域の利用者が8割以上を占める施設は除外し、観光利用の対象として取り扱っているものに限定（道の駅等、複合的ショッピング施設・街、朝市・市場、郷土料理店・レストラン）。
- ・「行祭事」・・・合併前市町村区域住民の生活において伝統と慣行により継承されてきた、定期的に行われる集客5,000人以上の行祭事（行祭事、郷土芸

能、地域風俗)

- ・「イベント」…常設もしくは特設の会場において、一定の成果を期待して人や金を集めることを目的として行われる集客5,000人以上のイベント(博覧会、展示会、見本市、コンベンション、国体、花火大会)。

(2) 宿泊施設

・宿泊施設の定義

管理者が明確で常駐しており、毎日の利用者数を確実に把握することができ、宿泊に必要なサービスを営利目的で提供する、観光客を宿泊させるための施設。ただし、個人所有の別荘、リゾートマンション、ホームステイ先の個人住居、同伴ホテル・旅館、カプセルホテル等は除外。

3. 調査実施機関

県、市町村(平成22年末時点の市町村の別による)